



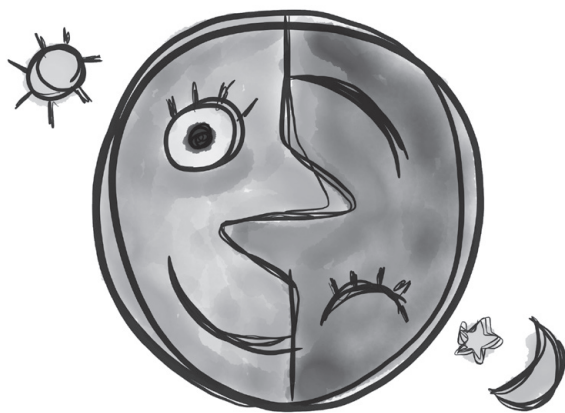
## 28

## 夜勤

人間は、夜勤をやったことのある人とない人の2つに分類できる。私は夜勤ではなくて宿直だったが、事件が起これば夜勤職員といっしょに朝までバタバタすることは何度かあったので、夜勤体験派のほうに分類されるだろう。

特養ホームが世の中から見ると別の世界だが、そのホームの夜はまた別の世界が存在している。入所者の違った面や人間関係が見えてくる。昼間には見せない表情に驚くことがよくあった。

認知症老人が夕方になると落ち着かなくなるのはよく知られている。1日のうちのちようどその裏の時間帯、つまり午前3時や4時頃には逆のことが起きる。発語もなく何もわかっていないはずの老人が突然私に「ご苦労さま」と言ったりする。でも日が出る頃には元に戻っているのだけれど。



Illustration：特養ホーム訪問時に会う入所者の女性は、「今朝はあなたのおかあさん、声をかけると元気に『おはよう』って言われましたよ」などと言う。まったく発語がなくなった義母ほどではないけれど、彼女もまた認知症が深い人なので、にわかには信じがたいけれど本当に朝一番は発語があるのだろうか。食事介助で面会するのは昼ごろなので、夜明けに咲いて、日が高くなる頃にはしぼんでしまう、朝顔のような人になっているのかもしれない。